

発行人 今村久美子

〒191-0041日野市南平2-56-10

Tel&Fax 042-591-0248

E-mail: csc-hino@angel.email.ne.jp

http://www.angel-hino.com/

受付中の「多摩平の森ふれあい館」



◀シンポジウムで挨拶する馬場弘融市長
他市に招かれ講演する提供会員須子雅子さん



日野宿本陣の開館準備をするスタッフ



◀緑鮮やかな憩いの場 コミュニティ・カフェ「cafe Green」

ごあいさつ

特定非営利活動法人市民サポートセンター日野
理事長 今村久美子

特定非営利活動法人市民サポートセンター日野は市民の皆様をはじめ、さまざまな分野の方々の大きなご支援とご協力をいただき、2004年4月1日に発足致しました。

2003年8月5日に設立認証申請書を東京都に提出し、同年11月20日に認証を受け、11月28日に登記を完了し、この日を以って法人成立の運びとなりました。

この結果、13年間にわたって大勢の方々に親しんで頂いた「日野市女性社会事業協会」はリニューアルし、「NPO市民サポートセンター日野」として再出発をすることになったわけです。

任意団体であった日野市女性社会事業協会が、NPOとしての法人格をもった団体へ移行するに当たって会員の皆様にお伝えしましたところ、事業の継続を求める強い要望を数多く頂きました。

この女性社会事業協会が担ってきた事業を継続することを私どもの社会的使命と受け止め、事業の発展へ向けて努力することをお約束いたします。

この協会の設立経過につきましては、1975年の第一回国連世界女性会議にまでさかのぼります。国連が男女平等実現に向

けて開催した「世界会議」で採択された「世界行動計画」の呼びかけに応じて、国は1977年に「国内行動計画」を、東京都は1978年に「女性問題解決のための東京都行動計画」を策定しました。日野市はこうした国内外の動きに連動して1982年に旧婦人センターを設立し、同時に「日野市婦人問題懇談会」を設置しました。第1期婦人問題懇談会でを行った基礎調査「女のくらしアンケート」の結果、「育児や介護で困ったときに援助してもらえる制度」の要望が圧倒的に多く、この結果を踏まえて、第2、3、4期の「婦人問題懇談会」は一貫して「女性が社会参加・参画できる条件整備の制度確立」を提言してきました。

このような世の中の流れや市民の大きな声に押され、日野市は1991年に「日野市女性社会事業協会」を設立し、事業として保育・家事・妊産婦・高齢者相互援助活動を行ってきたのです。

当NPOは、日野市より「日野市ファミリー・サポート・センター事業（保育・家事・妊産婦・高齢者相互援助活動）」を受託し、歯止めのかからない少子高齢社会の中での多様な課題解決に向けて日々取り組んでまいります。皆様のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



オンリーワンの キャリアづくり

— 少子高齢社会で支え合う —

NPO市民サポートセンター日野のお披露目を兼ね、今春オープンしたばかりの多摩平の森ふれあい館において、梅雨入りした6月6日(日)にシンポジウムを開催しました。

(共催：日野市・ひの市民活動団体連絡会・実践女子短期大学生活福祉学科)

NPOになって初めての大きなイベントです。雨に映える木々の緑を背景に、20代から70代まで71名が集いました。

今村理事長の開会の辞に続き、ご多忙の中かけつけてくださった馬場弘融日野市長からご挨拶をいただき、私たちのNPOの使命とこれからへの希望がふくらみます。

基調講演では、フェミニスト経済学の第一人者、篠塚英子さん(お茶の水女子大学教授)が、男女平等の歴史をわかりやすく辿り、男女共同参画社会といってもたかだか30年の歴史しかなく、先行する国際社会の動きをそのまま取り入れることで対応してきたために、その意図することを十分に咀嚼できていない日本の現状を解説。私たち自身の意識に残っている先入観や、足元の生活をもう一度見直す必要があるのではないかと考えさせられました。



パネルディスカッション：右から柳田陽子、藤岡亜美さん、長谷祝子さん、篠塚英子さん

基調講演に続いて、3人のパネラーから、これまでの自分自身のキャリア形成について発言。長谷祝子さん(日本システム開発株式会社代表取締役)は「40歳の手習いで何か始めよう」と起業を決意。23年前に「コンピューターの時代がくるのでは」という直感と、「知らない者の強さ」でどこにでも飛び込んでいく行動力をもって創業。会社は、時代の最先端を走り続け、自宅の一室でスタートしたのに今では100名の従業員を抱える企業に成長したと振り返る。

藤岡亜美さん(スローウォーターカフェ有限会社代表取締役)は男女平等が当たり前の中で育った20歳代。学生時代にフィールドワークで訪ねたエクアドルで、日本企業による森林の鉱山開発に反対して森にコーヒーの木を植える

人々に出会ったことから、現地の生活と環境を守り、かつ日本人の生活をスローダウンさせるような商品の開発と輸入・販売を手がける会社を創設。

事務局の柳田陽子は、出産を機に専業主婦となったものの、初めての育児で不安がつきまとい、24時間育児・家事で振り回されても誰にも評価されない。藁をもつかむ思いで出かけた託児つき講演会をきっかけにして、0歳児を抱えながら学ぶことで人生が開けた。時間的には大変でも自分の学習・仕事があることが気持の支えとなり、仲間たちの手助けを得て第二子・第三子を出産した経緯を報告。

次のディスカッションでは、「性別に関わらず能力本位の職場だが、女性社員が結婚しないのがなぜかわからない」という長谷さん。「男性の方が固定観念に縛られて不自由に見える」という藤岡さん。「若い女性の非婚化と共に専業主婦志向が強まっているが、専業主婦の子育てはむずかしい」と柳田。

パネラーの意見に対し、参加者からも「託児所をつくれれば子どもを産むようになるだろうか」「大量生産大量消費社会が子どもたちを破壊してきたと思う。人間が増えすぎたのだから少子化は問題ではないのでは」など、活発な意見が出されました。

「便利な社会」の最先端を創る長谷さんと、「スローな暮らし」を提案する藤岡さんの仕事は対照的で興味深く、「限られた資源を世界全体でどう回していくかが経済の課題であり、自分たちの利益だけでなく本当に必要なところに資源を割り振っていくよう、男性も女性もひとり一人が自覚的に行動して、持続可能な社会にしていかなければならない」という篠塚さんのまとめに、一同、納得。

シンポジウム終了後の懇親会では、「Cafe Green」のコーヒー(藤岡さんの会社から仕入れている)を味わいながら交流を深め、話し足りなかった思いをつなぎ合わせて新たなエネルギーに。日野の女性パワーを感じると同時に、参加した人と参加しない人との温度差が気になるという声も聞かれました。

「自分にももっとできることがあるのではないかと」等々、参加した方々が前向きな思いを持ち帰って下さったことが何より嬉しい会となりました。これからもこのような催しを毎年企画していく予定です。皆様と一緒に、女も男も誰もが自分らしく暮らせるようなまちを、社会を、創っていきましょう！

事務局 柳田陽子

サポーター募集

当NPOのミッション設立趣旨の中には地域に雇用創出することが謳われています。

まだまだ力不足ではありますが、今後、日野市や地元企業と協力して会員の皆様の力を地域で生かすための努力をしていきます。そこで、市民サポートセンター日野を通して地域に貢献したいという意欲のある皆様を「サポーター」として登録するシステムをつくります。応募なさりたい方は☎583-1528までお問い合わせ下さい。



1

ファミリー・サポート・センター事業

(子育て・妊産婦・家事・高齢者の相互援助活動)

多摩平の森の一角に新設された「多摩平の森ふれあい館」のファミリー・サポート・センター事務局には、毎日のように小さなお子さんを連れてママが依頼会員として登録に訪れます。また、場所柄、多摩平周辺、日野・豊田駅周辺の提供会員さんも確実に増えており、この街での相互援助活動の一層の広がりが期待できます。

ファミリー・サポート・センターでは、会員の皆さま相互に喜ばれる活動を支え、発展させようと頑張っています。日々の暮らしの中で手助けが欲しいとき、ひとりで悩まず、まずはお電話を下さい。(☎042-589-7616 月~金/8:30~17:00) 会員登録は無料ですので、いざという時に備え、事前の登録をお勧めします。

3

「日野宿本陣」受付案内業務

東京に残る唯一の本陣建造物として日野市の文化財の指定を受けている日野宿本陣は、名主・佐藤彦五郎が開いた新撰組ゆかりの道場があったところとして、今ではあまりにも有名です。

ここでの業務は朝8時半にスタートし、開館前の念入りかつ伝統的な掃除(ぞうきんがけ、庭掃除、水まき等)が重要な仕事のひとつ。団体のお客さんも多く、全国から老若男女の熱心な新撰組ファンが来館するので、そんな時には日野人であることに誇りを感じる瞬間でもあります。365日年中無休のため、休日のシフトを埋めるのに苦労しますが、5~6名のサポーターが交代で活躍しています。

最古参の堀ゆみ子さんは、「この仕事についてから、歴史に興味をもち、東京のただの田舎と思っていた日野でしたが、大きな夢に向かって最後まで諦めずに行動した新撰組隊士を多く輩出した地であることを知り、郷土愛のようなものを感じるようになりました。入館者のデータをパソコン入力することも覚え、いろいろな人との出会いに教えられ、貴重な体験をさせてもらっています。」と。さすがNPOのサポーターですね。

5

自主講座の開催

問い合わせ・申込みは
☎042-583-1528へ

自然環境は、人権や福祉以前に人の生存にかかわる前提条件となる大きなテーマです。

「緑と清流のまち日野」を次世代に残せるように、2シリーズの環境連続講座を開催します。(毎回原則10:00~12:00)

親子で「さあ、自然の中へ」

(3~6歳とその親向け/全6回) 参加費各回500円/原則全回参加

7月25日(日)「オリエンテーションと水辺の生きもの発見ツアー」

集合:多摩平の森ふれあい館 集会室6(JR豊田駅徒歩6分)

自然はみんなの教室/講師:伊藤正侑子(スカンジナビア政府観光局)

黒川清流公園へ移動~スウェーデン・ムッレ流「自然の中へ出かけよう」

講師:高見幸子(野外生活推進協会 インストラクター)

8月7日(土/雨天翌日)「多摩川ネイチャー・ウォーキング」

多摩川の自然豊かな平堰(たいらせき)で夕涼み&ツバメの巨大ねぐらを原体験

集合:日野駅 講師:粕谷和夫(八王子・日野カワセミ会)

8月22日(日/雨天中止)「浅川(一番橋)で水遊び」

集合:南平駅 講師:中島政和(ナチュラリスト・水ガキ大将)

9月11日(土/雨天翌日)

「ネイチャー・アート/葉っぱでタペストリー(七生公園)」

集合:多摩動物公園駅 講師:岩上恵子(画家)

「多摩平の森ふれあい館」 受付案内業務

ふれあい館では、朝7時から夜10時まで毎日(年末年始を除く)、総合受付の業務を担っています。自転車で通える地元の方々を中心に、1日3交代のシフトで10余名のサポーターが携わっています。

どんなことにも丁寧に、気持ちよく笑顔で対応してくれると訪れる市民から喜ばれています。

また、毎月のミーティングでは、「受付に座ることが生活の張りとなり、着る物も若々しい色を選ぶようになって、気分も若返ったようで嬉しいです」というような声が続出し、事務局としては、ささやかでも社会と接点を持つことの効果、地域に雇用の場を創出することの意義を再確認しています。

4

コミュニティ・カフェ「Cafe Green」

市民の交流の場、憩いの場として、ふれあい館3階の廊下の奥で、小さいけれど洒落なカフェを運営しています。スタートして3ヶ月余り、4人のサポーターのコーヒーを入れる腕もあがりました。散歩がてら図書館に来て本を借り、カフェでおいしいコーヒーを飲みながら、ゆっくりとサポーターとの会話を楽しんでおられるシルバー世代。日曜日に小さなお子さんの手をひいてこられる若いパパ。コミュニティ・カフェをオープンして良かったと思う光景です。

コーヒーは香り高くマイルドな無農薬栽培もの。しかも産地の人々が公正な利益を得られるように配慮した(フェアトレード)豆を使用しています。クッキーやパウンドケーキも市内の女性菓子職人がオーガニック食材にこだわって心を込めて焼いたものを提供して好評です。

サポーター曰く「緑あふれる窓の外の景色に癒されながら楽しく仕事をしています。早く、2号店を出したいですね」とはいえ、経営はなかなか大変。皆様のご来店をお待ちしています!

9月25日(土/雨天翌日)「鎮守の森でどろんこすもうin若宮神社」

集合:豊田駅南口 指導:平一男

10月16日(土)「語りあおう!育児の楽しみ、悩み、そして夢」

集合:多摩平の森ふれあい館 集会室6

親:話し合い(コーディネーター 柳田陽子/育児アドバイザー)

子ども:おはなし会(読み聞かせボランティアと図書館で本を選び、読み聞かせ)

身近な自然に繰り出そう

(一般市民向け/全6回) 参加費各回500円/原則全回参加

8月7日(土/雨天翌日)

「日野に残る里山で援農&スローフード・クッキング体験」

集合:石坂宅/高幡不動駅から聖跡桜ヶ丘行きバスで「倉沢」下車・バス停前

講師:石坂 亜紀(農業者)

8月29日(日)「オリエンテーション/スウェーデンに学ぶ持続可能な社会」

会場:多摩平の森ふれあい館 集会室6(JR豊田駅徒歩6分)

講師:高見 幸子(国際NGOナチュラール・ステップ・インターナショナル

日本支部代表)

9月12日(日)「よそう森堀で昆虫たちの不思議発見」

集合:JR日野駅 講師:宮嶋 顕司(昆虫研究者)

10月24日(日)「多摩丘陵のネイチャートレイルで自然観察」

集合:京王線平山城址公園駅 講師:北野 日出男(学芸大学名誉教授)

11月14日(日)「秋たけなわ 植物たちのくらしの知恵と古代の地層」

集合:多摩テック正門前

講師:赤松 陽(高校教師)・杉浦忠機(日野の自然を守る会)

11月28日(日)「数万キロを飛んできた冬鳥たちのいきさま」

集合:モノレール万願寺駅

講師:川那部 真(人と自然の環境研究所代表)



NPOの未来を拓こう

去る6月28日に平成16年度第1回理事会・通常総会が「多摩平の森ふれあい館」で開かれ、誇りをもってNPOの王道をすすみ、未来を拓いていこうと確認し、15年度事業報告・決算、16年度事業計画・予算案が下記の通り承認されました。

平成15年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支計算書

科 目	金 額 (単位:円)	
収入の部		
1. 会費・入会金収入	174,000	174,000
2. 事業収入		
ふれあい館施設管理事業	89,200	
日野宿本陣施設管理事業	730,800	
コミュニティカフェ事業	0	820,000
当期収入合計		994,000
支出の部		
1. この法人の目的を達成するための啓発広報事業	118,000	118,000
2. コミュニティカフェ事業	230,641	230,641
3. 公、私立の施設管理運営事業		
ふれあい館施設管理事業費	71,913	
日野宿本陣施設管理事業費	579,717	651,630
当期支出合計		1,000,271
当期収支差額		-6,271
次期繰越収支差額		-6,271

平成16年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支予算書

科 目	金 額 (単位:円)	
収入の部		
1. 会費・入会金収入	440,000	440,000
2. 寄付金収入	402,000	402,000
3. 事業収入		
ファミリーサポート育児支援事業	7,975,000	
ファミリーサポート介護・家事支援事業	6,492,000	
ふれあい館施設管理事業	4,839,000	
日野宿本陣施設管理事業	4,228,000	
コミュニティカフェ事業	2,500,000	
学習講座事業	100,000	
損保ジャパン助成金事業	750,000	26,884,000
4. 雑収入	1,000	1,000
		27,727,000
支出の部		
事業費		
1. 市民のライフステージに応じた学習及び資格取得講座の開催及び講師派遣事業		
学習講座事業	943,000	
損保ジャパン助成金事業	750,000	1,693,000
2. 日野市ファミリー・サポート・センター事業		
ファミリーサポート育児支援事業	7,975,000	
ファミリーサポート介護・家事支援事業	6,492,000	14,467,000
3. コミュニティカフェ事業	2,500,000	2,500,000
4. 公、私立の施設管理運営事業		
ふれあい館施設管理事業	4,839,000	
日野宿本陣施設管理事業	4,228,000	9,067,000
		27,727,000

通信の愛称募集



この通信が皆さまのメディアとして、交流の場として親しまれるような愛称を募集中。お待ちしております。

編集後記

NPOがスタートして4ヶ月。この間、日々ファミリー・サポート・センターを運営しながら、カフェをオープンし、シンポジウムを開催し、ふれあい館、日野宿本陣の受付業務を管理し、案内チラシ、HPをつくり、何とか無事に当初事業案を上回る実績をもって東京都に報告書を提出することが出来ました。そしていまやっと、この通信を創刊。皆様の大きなお力添えに感謝するとともに、今後もし引き続きご支援をよろしくお願い致します。



当誌は全紙100%再生紙を使用しています。石油系顔料を含まないインキを使用しています。